

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号
特開2002-213849
(P2002-213849A)

(43) 公開日 平成14年7月31日(2002.7.31)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テーマコード*(参考)
F 2 5 D 3/08		F 2 5 D 3/08	Z 2 B 1 0 9
A 0 1 K 97/20	5 0 1	A 0 1 K 97/20	5 0 1 3 E 0 6 7
B 6 5 D 81/38		B 6 5 D 81/38	P 3 L 0 4 4

審査請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 6 頁)

(21) 出願番号 特願2001-6163(P2001-6163)

(22) 出願日 平成13年1月15日(2001.1.15)

(71) 出願人 000002439

株式会社シマノ

大阪府堺市老松町3丁77番地

(72) 発明者 尾原 省吾

大阪府堺市御池台2丁-6-4-109

(74) 代理人 100074332

弁理士 藤本 昇 (外4名)

Fターム(参考) 2B109 DA32

3E067 AB02 AB26 EA32 EC22 EC24

EE13 EE30 FC01 GA02 GA04

GD01

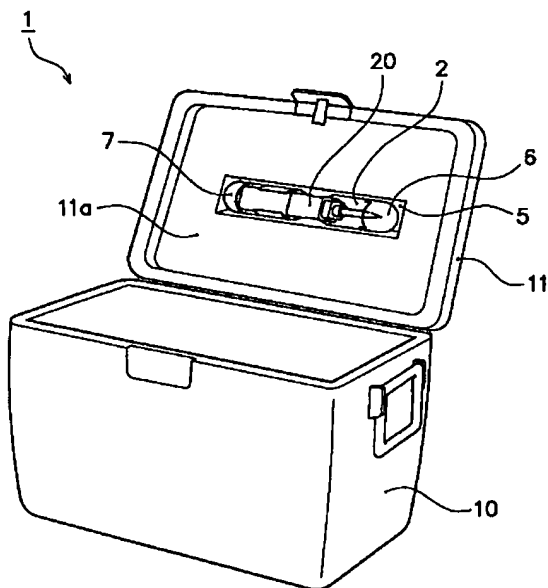
3L044 AA02 BA03 CA11 DC01 KA04

(54) 【発明の名称】 クーラーボックス

(57) 【要約】

【課題】 要時に直ちに準備でき、且つ、安全にアイスピックを携行できるようにする。

【解決手段】 上記課題を解決する解決手段は、クーラーボックスに有り、該クーラーボックスは、クーラーボックス本体に、アイスピックを固定させて保持可能なアイスピックホルダーが設けられてなることを特徴とする。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 クーラーボックス本体(1)に、アイスピック(20)を固定させて保持可能なアイスピックホルダー(2)が設けられてなることを特徴とするクーラーボックス。

【請求項2】 前記アイスピックホルダー(2)には、保持された状態のアイスピック(20)のピック部(23)先端をカバー可能なフード部(6)が設けられてなる請求項1記載のクーラーボックス。

【請求項3】 前記クーラーボックス本体(1)には凹部(5)が設けられ、該凹部(5)内に前記アイスピックホルダー(2)が設けられてなる請求項1又は2記載のクーラーボックス。

【請求項4】 前記アイスピック(20)は、ピック部(23)をカバーするように装着可能なキャップ(22)を備えてなり、前記アイスピックホルダー(2)は、キャップ(22)が装着された状態のアイスピック(20)を保持可能とされてなる請求項1乃至3の何れかに記載のクーラーボックス。

【請求項5】 前記アイスピック(20)は、ピック部(23)がカバーされるように前記キャップ(22)が装着される第1装着状態と、ピック部(23)が露出するように前記キャップ(22)が装着される第2装着状態とをすることが可能とされてなり、前記アイスピックホルダー(2)は、前記第1装着状態及び前記第2装着状態の何れの状態のアイスピック(20)をも保持可能とされてなる請求項4記載のクーラーボックス。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、ジュースや魚等の被収容物を収容して保冷するクーラーボックスに関する。

【0002】

【従来の技術】従来、クーラーボックスは、ハイキングや釣りにおいて携行され、ハイキングにおいては、クーラーボックスの収容部に、保冷用の氷と共にジュース等の食品を収容したり、又、釣りにおいては、収容部に、保冷用の氷と共に釣った魚等を収容したりする等、被収容物を保冷する目的に使用されている。

【0003】ところで、クーラーボックスに使用される保冷用の氷は、通常、レンガ状に形成されており、被収容物を効率よく冷やすためには、該レンガをアイスピックで細かく砕くことが必要である。

【0004】従って、通常、クーラーを携行する際には、アイスピックをバック等に入れて別途携行している。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、アイスピックを別途携行した場合には、いざ、釣り場でアイスピックを使って氷を粉碎しようとした際に、アイスピ

ックをバック等から探し出す必要があり、直ぐに準備することができず、非常に煩雑な思いをする場合がある。

【0006】これに対し、単にクーラーボックス内にアイスピックを収容して携行することも考えられるが、アイスピックは、ピック部が突出して先鋭となっていることから、クーラーボックス内で移動して、ピック部が衝突することによりクーラーの壁面が傷つけられたり、又、ピック部の先端が衝突して他の被収容物を傷つけたりする等の虞があり、安全にアイスピックを携行できるものではない。

【0007】そこで、上記従来の問題点に鑑み、要時に直ちに準備でき、且つ、安全にアイスピックを携行できるようにすることを本発明の課題とする。

【0008】

【課題を解決するための手段】上記課題を解決する解決手段は、クーラーボックスに有り、該クーラーボックスは、クーラーボックス本体に、アイスピックを固定させて保持可能なアイスピックホルダーが設けられてなることを特徴とする。

【0009】斯かる構成からなるクーラーボックスにおいては、アイスピックホルダーにアイスピックを保持させることにより、クーラーボックス内の氷を砕く際には、該クーラーに設けられたアイスピックホルダーからアイスピックを取り外して使用することができる。しかも、保持されたアイスピックは固定されてなるので、単にクーラーボックスの収容部に収容した場合の如く、他の被収容物や壁面等を傷つける虞も低減し、安全にアイスピックを携行することができる。

【0010】本発明においては、前記アイスピックホルダーに、保持された状態のアイスピックのピック部先端をカバー可能なフード部が設けられてなるものが好ましい。斯かる構成を採用することにより、固定されているアイスピックのピック部に、誤って指を突き刺したり、又、他の釣り具等をぶつけたりする虞も低減し、より安全に、アイスピックを携行することができる。

【0011】本発明においては、前記クーラーボックス本体には凹部が設けられ、該凹部内に前記アイスピックホルダーが設けられてなるものが好ましい。斯かる構成を採用することにより、保持されるアイスピックの少なくとも一部は、凹部内に収容されることになり、該アイスピック及びアイスピックホルダーが邪魔になる虞も低減される。

【0012】また、本発明において、前記アイスピックは、ピック部をカバーするように装着可能なキャップを備えてなり、前記アイスピックホルダーは、キャップが装着された状態のアイスピックを保持可能とされてなるものが好ましい。斯かる構成からなるクーラーボックスにおいては、クーラーボックスと共に携行されたアイスピックを、釣り場等において更に単独で携行する場合に、キャップでピック部をカバーしながら携行すること

ができ、安全にアイスピックを携行することができる。しかも、前記アイスピックホルダーは、キャップが装着された状態のアイスピックを保持可能とされてなるので、キャップを探し回る必要なく直ちに準備することができ、更に、キャップを紛失する虞も低減される。

【0013】更に、この構成からなるクーラーボックスにおいては、前記アイスピックは、ピック部がカバーされるように前記キャップが装着される第1装着状態と、ピック部が露出するように前記キャップが装着される第2装着状態とを取ることが可能とされてなり、前記アイスピックホルダーは、前記第1装着状態及び前記第2装着状態の何れの状態のアイスピックをも保持可能とされてなるものが好ましい。斯かる構成からなるクーラーボックスは、頻繁にアイスピックを使用する場合や両手がふさがっている場合等においては、第2装着状態のままアイスピックを保持させておくことで、使用の度にキャップを着脱する必要が無く、しかも、要時にアイスピックホルダーから取り外すだけで、直ちにピック部を露出させることができ、取扱いが容易であるという利点を有すると共に、クーラーボックスを携行して移動している最中や長時間使用しない場合等においては、第1装着状態で保持させておくことで、例えば、万一、アイスピックホルダーからアイスピックが外れた場合等であっても、ピック部がキャップによってカバーされているため、安全性を維持することができる。

【0014】

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施の形態に付いて、図面を参照しつつ説明する。先ず、本実施形態において使用されるアイスピックに付いて説明する。図5に示すように、本実施形態において使用されるアイスピック20は、棒状で断面視略矩形に形成されたアイスピック本体21と該アイスピック本体21に同軸状に装着される断面同形状のキャップ22とを備えてなる。前記アイスピック本体21は、断面視略矩形状で且つ棒状のグリップ部24と、該グリップ部24の軸方向先端側に、同軸状で先鋭に突出するピック部23とを備えて構成されている。また、グリップ部24の軸方向先端には、該グリップ部24より外周の小さい第1キャップ装着部25が、軸方向の基端には、同様に外周の小さい第2キャップ装着部26が同軸状に備えられてなる。

【0015】前記キャップ22には、前記第1、第2キャップ装着部25、26と嵌合装着可能で且つ前記ピック部23を収容可能な収容穴27が設けられており、該キャップ22は、前記アイスピック本体21に装着可能となっている。

【0016】そして、アイスピック20は、キャップ22が第1キャップ装着部25に装着され、ピック部23がキャップ22にカバーされた第1装着状態と、ピック部23が第2キャップ装着部26に装着され、ピック部23が露出した第2装着状態とを選択的に取ることがで

きる構成となっている。

【0017】次に、本実施形態のクーラーボックスについて説明する。図1に示すように、本実施形態のクーラーボックス本体1は、ジュースや魚等を収容する収容部10と、該収容部10にヒンジを介して開閉自在に設けられた蓋部11とを備えて構成されている。

【0018】前記蓋部11の内面側11aには、図1及び図2に示すように、該内面側11aから外面方向に凹入する凹部5が設けられてなり、該凹部5内には、アイスピックホルダー2が設けられてなる。

【0019】このアイスピックホルダー2は、前記アイスピック20が着座する長尺板状の基台部3を備え、該基台部3は、裏面側において前記凹部5の底面に取り付けられている。取付方法としては、例えば、間に接着剤や両面テープを介在させて接着する方法やネジの螺合により取り付ける方法等が採用されてる。尚、本実施形態においては、別体のアイスピックホルダー2が上記方法によってクーラーボックス本体1に取り付けられたが、本発明においては、成形によりクーラーボックス本体1と一体的に形成されているものであっても良い。

【0020】前記基台部3の表側、即ち、アイスピック20が着座する側には、長手方向の一端側に、ピック部23をカバー可能な前フード部6が、他端側に、キャップ22をカバー可能な後フード部7がそれぞれアイスピック20を間において囲むように設けられている。また、基台部3の長手方向中間部には、保持されるアイスピック20のグリップ部24に対応する部位において、短手方向の幅が減少し、装着されるアイスピック20の幅以下の幅に設定された小幅部8が形成されている。

【0021】さらに、前記基台部3には、該基台部3の長手方向中間部よりも後端側に、前記アイスピック20に係止可能な係止部14が設けられる。この係止部14は、一対の狭持用爪部13を備え、該狭持用爪部13の共働下、アイスピック20のキャップ22を間に介在せしめ狭持する構成であり、このキャップ22が装着されるアイスピック本体21の装着部が第1又は第2キャップ装着部25、26の何れであるかを問わず、キャップ22を狭持することができる。即ち、アイスピックホルダー2は、アイスピック20が第1装着状態（図3参照）及び第2装着状態（図4参照）の如何を問わず、キャップ22においてアイスピック20を保持することができる構成となっている。

【0022】図4は、係止部14が前記第2装着状態のアイスピック20に係止し、該アイスピック20がアイスピックホルダー2に保持されている状態を示している。第2装着状態のアイスピック20がアイスピックホルダー2に保持された状態では、ピック部23の先端部は、前フード部6にカバーされた状態となっている。一方、第1装着状態のアイスピック20に係止部14に係止し、該アイスピック20がアイスピックホルダー2に

保持された状態では、図3に示すように、ピック部23は、キャップ22にカバーされてなり、第2キャップ装着部26が前フード部6に僅かにカバーされた状態となっている。

【0023】このクーラーボックスを使用する場合、先ず、第1装着状態のアイスピック20をアイスピックホルダー2に保持させて、釣り場等に携行した後、例えば、氷を砕いたり、貝などの餌を砕いたり、更には、オキアミのレンガを砕いたり、頻繁にアイスピック20を使用する場合には、アイスピック20を取り出した後、

キャップ22を付け替えてアイスピック20を第2装着状態(図5(イ)参照)にして使用し、使用後は、そのままピック部23が露出した状態(第2装着状態)で、キャップ22を係止部14に係止させて、アイスピック20をアイスピックホルダー2に保持させる(図4参照)。そして、要時においては、基台部3の小幅部8上にあるグリップ部24を把持して、第2装着状態のアイスピック20を取り出し、キャップ22を付け替えること無く、そのまま使用する。

【0024】一方、長時間使用しないような場合には、使用後にキャップ22を第2キャップ装着部26から第1キャップ装着部25に付け替えて、第1装着状態にした後(図5(ロ)参照)、キャップ22を係止部14に係止させて、アイスピック20をアイスピックホルダー2に保持させる(図3参照)。

【0025】本実施形態のクーラーボックスは、上記の如く構成されてなるので、以下の利点を有するものである。即ち、本実施形態においては、基台部3に、アイスピック20の幅以下に設定された小幅部8が設けられて

と、蓋部11の内面側11aを上方又は外方に向けることができ、容易にアイスピック20を取り出すことができる。

【0027】さらに、本実施形態において、アイスピックホルダー2には、保持されるアイスピック20を間において囲むようにそれぞれフード部6、7が設けられるので、狭持用爪部13間で狭持されたアイスピック20が、該狭持用爪部13に対して摺動して長手方向に移動しても、その移動は、各フード部6、7で制止されるため、狭持用爪部13間からアイスピック20が脱抜する虞も低減される。

【0028】尚、本発明のクーラーボックスは、上記構成に限定されず、適宜設計変更可能である。

【0029】例えば、上記実施形態において、狭持用爪部13は、キャップ22を狭持するように設けられたが、第1装着状態及び第2装着状態を問わず、グリップ部24を狭持する狭持用爪部13を、例えば、基台部3の長手方向中間部に設ける場合であっても本発明の意図する範囲内である。

【0030】

【発明の効果】以上のように、本発明に係るクーラーボックスにおいては、アイスピックホルダーにアイスピックを保持しておくことで、アイスピックを要時に直ちに準備でき、且つ、安全にアイスピックを携行することができるという利点を有する。

【図面の簡単な説明】

【図1】一実施形態のクーラーボックスを示す斜視図。

【図2】同実施形態の蓋部の内面側を示す拡大平面図。

【図3】同実施形態のアイスピックホルダー及びアイスピックを示す拡大図で(イ)は、正面図、(ロ)は、側面図。

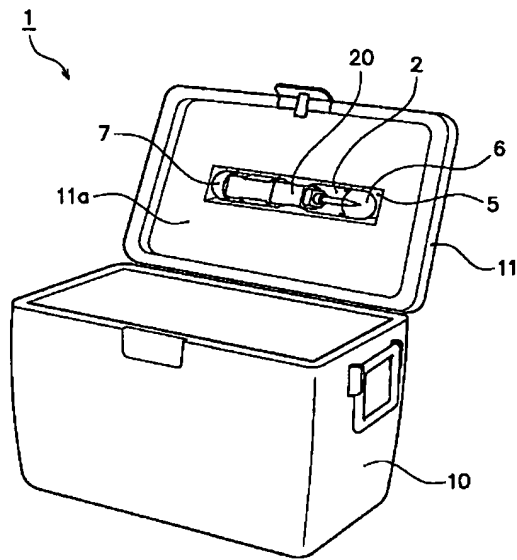
【図4】同実施形態のアイスピックホルダー及びアイスピックを示す拡大図で(イ)は、正面図、(ロ)は、側面図。

【図5】同実施形態のアイスピックを示し、(イ)は、第2装着状態を示す拡大図、(ロ)は、第1装着状態を示す拡大図。

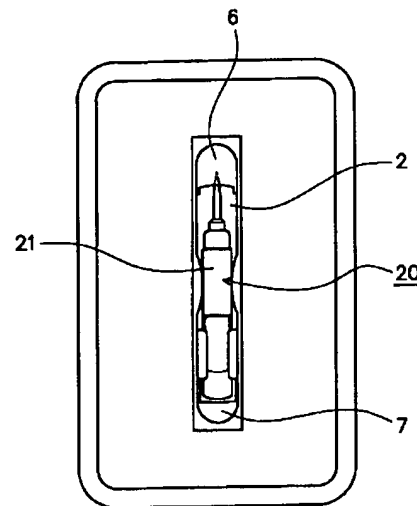
【符号の説明】

1…クーラーボックス本体、2…アイスピックホルダー、5…凹部、6…フード部、20…アイスピック、22…キャップ、23…ピック部

【図1】

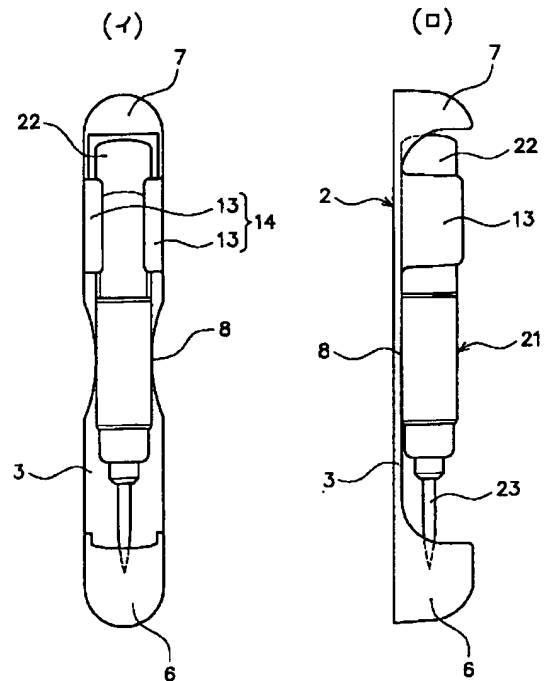
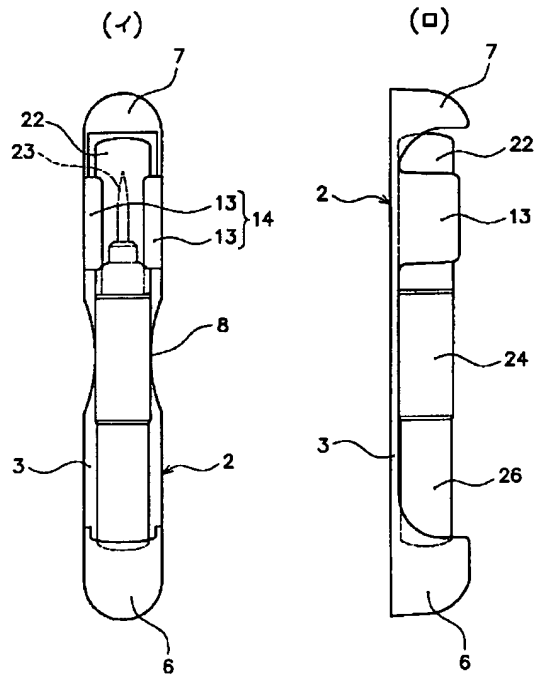


【図2】

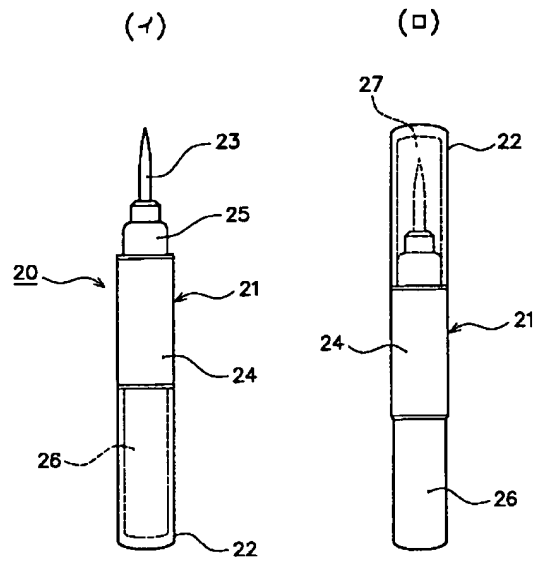


【図4】

【図3】



【図5】



PAT-NO: JP02002213849A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 2002213849 A
TITLE: COOLER BOX
PUBN-DATE: July 31, 2002

INVENTOR-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
OHARA, SHOGO	N/A

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
SHIMANO INC	N/A

APPL-NO: JP2001006163

APPL-DATE: January 15, 2001

INT-CL (IPC): F25D003/08, A01K097/20 , B65D081/38

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To enable ice pick to be immediately prepared when needed, and to safely carry it.

SOLUTION: A cooler box comprises a cooler boxy body, and an ice pick holder which is capable of fixedly holding the ice pick and provided at the body.

COPYRIGHT: (C)2002,JPO